

「ふらの森の教室だより」を発行しました。

森林学習プログラム

投稿者：：

Posted on：2024-2-14 13:40:00

森林学習の活動を紹介する「ふらの森の教室だより」を発行しました。このページから閲覧するほか、当館や図書館等の施設でも配布しています。

No.26



【令和4年度の森林学習プログラム】

今年度は予定していた9校全ての学校で森林学習を実施することができました。

小学校の森林学習は、「オリエンテーリング」を取り入れた森林散策を神社山と鳥居公園で行い、旭海学校7・8年生は、神社山で採取した樹木の葉っぱを標本にし、木の香りを抽出する活動に初めて挑戦してみました。

6月から始まった鳥居公園での森林学習は、鶴山小学校、富良野小学校、栗小学校と、夏休み明けに藤野小学校、鳥居小学校、布部小学校で行いました。昨年が公園全体を隈なく散策しましたが、限られた時間ではどうしても急ぎ足になってしまい、ゆっくり観察ができないというサポーターからの意見を反映させ、今年は遊地側をめぐるグループと遊地をめぐるグループに分れて活動しました。

各学校とは、まとめた活動をどのような形で行うか事前に打合せしていますが、今年も散策中に見つけたものを図鑑形式でまとめる「図鑑作り」と、見つけたものをどこで見つけたかを地図上にまとめる「マップ作り」の2つから選択してもらいました。子どもたちが散策中に気づいたものを写真に撮ったり、採取したりしたものを、事後学習の日在学校で調べてまとめるというほかの活動も一緒に。子どもたちはまとめた活動を想像しながら、たくさんの方や葉っぱなどを集め、写真に撮っていました。

公園の散策時には、サポーターが考えた「図鑑」がら贈り物準備されており、散策の合間に子どもたちは笑顔で贈っていました。1.5メートルのピンボールがどこまで刺さるかを当てて遊ぶ遊具では、実際にそれぞれ体験して、子どもと一緒に先生たちも驚いて目を白黒させていたのが印象的でした。



栗小 2023年の標本づくり

神社山での森林学習は、旭海学校3・4年生、山部小学校、旭海学校7・8年生で行いました。旭海学校の7・8年生は木の香りを抽出する「フレグランス作り」を、旭海学校3・4年生と山部小学校は、オリエンテーリングを取り入れた森林散策でした。旭海学校3・4年生は葉と木の2回実施がすっかり定着しましたが、神社山の森を歩き、季節の違いを感じることができるとは貴重な体験だと思います。子どもたちがまとめた葉と木のマップからも、森の様子と季節の変化を感じることができました。

神社山で実施する学校は、森の中までバスで乗り入れ、スタート地点からゴールのあすまやまでを徒歩で移動していきます。途中、ホップのような実を付けたサワシバや甘い香りのカツラの木などについて、サポーターからいろいろ教えてもらいます。またタネや葉を手にとってその感触を確認したり、ミズナラの樹皮に指を刺したり様々な体験をしました。正味1時間半ほどの散策はあっという間に終わり、あすまやで待機しているバスに再び乗り込み学校へ戻っていきます。学校に着くのが12時頃なので、いつも通って美味い朝食が食べられるのではないのでしょうか。そう言えば、歩きながら「腹へった」という子に「おじさんへ」と答え、お互いに「腹へご」状態を共有している様子もしばしば。



山部小 たのしみ葉っぱを採取しています！

旭海学校7・8年生 これ迄ですかわつ

今年で7年目を迎えた森林学習も、学校の先生や森林学習サポーターに支えられて、ここまで来ることができました。先生方からもアイディアをいただくことが増えて、サポーターとともに森林学習を一緒に楽しんでいる実感を得ます。これからもこの事業を通して、富良野で育つ子どもたちに寄り添いながら、故郷に大きく広がっている森林を感じてもらえるよう、引き続き切磋琢磨していきたいと思っています。



No.27



【サポーターのゲーム活動とプログラム改善】

今年度の森林学習プログラムは、サポーターとアイディアを出し合いながら内容を構築してきました。そのための森林学習サポーターを4チームに編成した「ゲーム活動」の予定を履行し、「プログラムチーム」に加えサポーターが主となってプログラムの改善を行い、6月の鳥居公園での森林学習から実践していただきました。活動開始はモチベーションを高めるためにアンケートを複数しつつ、改善を加えながら今後の神社山の活動にも反映していきます。

今年度の活動から重要なポイントとして、樹木の特性や木材の用途など、これまでメインとしていた理科の授業と社会科の授業を融合させるように工夫してきました。従来の「オリエンテーリング」を活動の軸とし、子どもたちが楽しめることを重視。樹木が持つ特性で目にするように林内に樹木を配置、触れた木ばかりでいい、樹木の性質を体験しながら学べる仕掛けも思いつきました。目標達成に用いることのないツツク、野郎のハット材として注目のカエデなどの堅い木は、叩くと森に響き渡るような高い音を発生し、トドマツやホノキなどの柔らかい木は、叩くと音がたたり響くという違いを感じました。子どもたちは新たな発見に歓声を上げていました。一方、真学館内には樹木の由来や人の関わりについて学ぶための図鑑も追加しました。

その他のチーム活動は、サポーターの知識や経験をもとに「スキャンアップチーム」活動の様子やサポーターが野外で感じたり気づいたりしたことをSNS上に発信する「図鑑チーム」。神社山に設置した監視カメラの管理を行う「野生動物観察チーム」があり、週報の欄にも掲載してもらいました。今年初の図鑑だよりも完成しましたが、毎年この図鑑にサポーターと協力していきたいと思っています。



旭海小 図鑑づくり

【令和5年度の森林学習プログラム】

鳥居公園での森林学習は、鶴山小学校3年生、富良野小学校4年生、栗小学校3年生の3校が体験し、旭海学校3・4年生、藤野小学校ら6年生、山部小学校3・4年生、旭海学校7・8年生の4校が神社山での森林学習を行いました。今年も旭海学校の3・4年生は葉と木の2回実施、神社山の季節の変化と比較できるスタイルが定着しました。

多くの学校で、導入されたタブレットを活用しての学習活動が主流となりつつあります。タブレットは操作性に富み、蓄積したデータを積極的に共有することができ、またその確認や呼び出しが簡単なことなど、これらの活動に欠かせないツールになりそうです。

季節は鳥居公園の散策、そのほかどこかのほかの場所ですが、神社山の樹木の観察が例年とは異なる印象を受けました。子どもたちが木のホップのようなサワシバは一つも実らず、高に集るとヘリコプターのようにクルクル回りながら落ちてくるシナノキの実もほとんどありませんでした。本事業も8年目を迎えましたが、このような森の様子は初めて感じました。そんな森の様子を子どもたちも感じていないながら、時には想像を膨らませることもある森の様子を感じてもらえるのも、森林学習の一つの醍醐味かもしれません。

旭海学校7・8年生のプログラムは2年ぶりに教員大の学生と一緒に作り、中々学生向けに大学生の興味も高まりが期待され、中には散策中に子どもたちと交流する機会も生まれました。季節は鳥居公園の散策、事前に子どもたちの様子や先生と相談し、子どもたちの準備に合わせたような内容でまとめたことで、笑顔のあふれる活動となりました。

来年は藤野小学校の旭海小学校の6年生が加わります。サポーターも毎年ワークショップしており、授業と一緒子どもたちの経験に合わせたプログラムを提供していきたいと思っています。



藤野小 森林学習の様子



旭海小7・8年生 2023年の森だより

バックナンバーの紹介ページは[コチラ](#)